

図書館だより



6月
3号

令和3年6月21日(月)
第一日暮里小学校
校長 白井 一之
学校図書館プロジェクト



どくしょじゆんかん
読書旬間がありました～図書集会 ブックデリバリー おやこ どくしょ
親子で読書～



図書委員会が各教室に回ってイベントの説明をしてくれました

ブックデリバリーの様子

6月3日には図書委員会児童による図書集会がありました。図書館の使い方についての劇やクイズの動画を見て、改めて図書館の使い方を学ぶことができました。また、読書旬間に合わせたイベントについても説明をしてくれました。そして、6月7日から2週間の一日小読書旬間がありました。学校では「ブックデリバリー」、ご家庭では「親子で読書」の取り組みをしています。自分で選ぶ読書ではなかなか出合えない本と出合えるチャンスでもある取り組みです。ブックランドの近くの本棚には、図書委員のおすすめの本が展示されていますので、メディアランドとブックランドで、1冊は図書委員のおすすめ本を読んだり、ふだん読まないジャンルの本を読んだりしてみたいですね。

夏休みにも「親子で読書」を予定しています。今まで読んだことのないジャンルの本や話題の本、友達で紹介で気になっていた本を読んでみてください。



青少年読書感想文全国コンクール

かだいとしょ しょうかい 課題図書を紹介します

がっこうとしょかん
学校図書館でも
かりられます

ちゅうがくねん ねんせい
中学年 3、4年生

* 『わたしたちのカメムシずかん やっかいものが宝ものになった話』

鈴木海花/文 はたこうしろう/絵 福音館書店

いわてけんくずまきまち
岩手県葛巻町にはとてもたくさんのカメムシがいます。小学校のそうじの時間に掃き集められたカメムシを見て、校長先生はいろんな種類がいることに気づき、子どもたちに「カメムシはかせになろう」と提案しました。やっかいもののカメムシが岩手県の小学校に想像もしなかった出会いと発見をもたらしてくれたお話です。
<こんな人におすすめ…調べたり実験したりするのが好きな人>



* 『ゆりの木荘の子どもたち』

富安陽子/作 佐竹美保/絵 講談社



ゆりの木荘は、今から百年以上もまえに建てられたという立派な洋館です。今は有料老人ホームとなり、六人のお年寄りが住んでいます。ある日、どこからか聞こえてきた手まり歌をまねして住人のサクラさんが歌ってみると、お年寄りたちは突然10歳くらいの子どもになってしまっ…。ファンタジーを樂しめる物語です。

<こんな人におすすめ…謎ときが好きな人>



* 『ぼくのあいぼうはカモノハシ』

ミヤエル・イングラ/作 はたさわゆうこ/絵 徳間書店



ドイツに住む男の子ルルスは、動物園からにげだしてきた人間と会話ができるカモノハシのシドニーと出会います。単身赴任中のお父さんに会いたいルルスと故郷に帰りたいシドニーは、一緒にオーストラリアに行こうとあれこれ作戦を立てるのですが…。二人のほのぼのとしたやりとりが楽しい冒険物語です。

<こんな人におすすめ…冒険にあこがれている人>

* 『カラスのいいぶん 人と生きることをえらんだ鳥』

嶋田泰子/著 岡本順/絵 童心社

今年の春ごろ、一日小の主事さんから「学校の近くにいるカラスが攻撃的になっている」と聞いたことがありました。この本を読んでわかりました。カラスにも襲う理由があったのです。大きくて黒くてずうずうしいと嫌われたり、神話の中ではうやまわれたり、人間の都合で振り回されるカラスにもいいぶんがありそうですよ。

<こんな人におすすめ…身近な自然に興味がある人>



うらめん こうがくねん かだいとしょ しょうかい
…裏面に 高学年の課題図書を 紹介しています…



* 『エシカの森と子馬のポンコ』

加藤多一/作 大野八生/絵 ポプラ社

牧場から逃げた子馬のポンコは長老の木エカシや不思議なカメムシたちとくらし
ています。ある日、ポンコは川の声も風の声もいつもと違うのに気づき、エカシにたずね
るのですが…。大自然の中でポンコが大人に成長していくすがたを
やさしくのびのびと描いています。

<こんな人におすすめ…心が自由になりたいと感じている人>

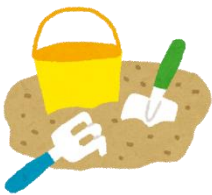


* 『サンドイッチクラブ』

長江優子/作 岩波書店

中学受験をめざし二つの塾に通っている珠子は将来の目標もないま
ま成績不振に悩んでいますが、夏期講習中に無心に砂像を作る少女ヒカ
ルと知り合います。将来の夢は「戦争をなくすためにアメリカの大統領
になる」という強烈な個性を持つヒカルと過ごしながら、珠子は新しい
世界と向き合う決心をします。

<こんな人におすすめ…夏休みを有意義に過ごしたいと思っている人>



* 『おいで、アラスカ!』

アナ・ウォルツ/作 野坂悦子/訳 フレーベル館

子犬の時から飼っていたアラスカを手放さなければならなかったパーケルは、新学期に青
白い顔をした転校生のスフェンと出会います。教室でスフェンにからかわれてからパーケ
ルはスフェンのことが大嫌いでしたが、下校の時、スフェンを迎えに
来ていたのは忘れもしないアラスカだったのです。パーケルはアラスカ
を取り戻そうと真夜中にスフェンの家に忍び込むのですが…。

<こんな人におすすめ…近い未来に不安をかかえている人>



* 『オランウータンに会いたい』

久世濃子/作 あかね書房

オランウータンの思慮深い目に魅せられた著者は、時には20メートルを超す
巨木に登り、時には夢中で追いかけてジャングルで迷子になりかけたりしながら
オランウータンの生態を研究しています。熱帯雨林の高い木の上でくらす野生の
オランウータンについては明らかになっていなかったことが多かったのですが、
ヒトである私たち人間と似ているところも意外とあるようで…。

<こんな人におすすめ…野生動物や環境保全に興味がある人>



雨の日は気をつけて

本はとても水に弱いです。一度ぬれてしまうとページがなみうち、貸し出しでき
なくなってしまうことがあります。雨の日は本がぬれないように注意しましょう。

また、ページがはずれたり破れている本を見つけたら、自分で直さずそのまま図書館に
もってきてくださいね。(図書館で専用のテープやのりで修理します)

